

コニカミノルタ株式会社

2019年（平成31年）3月期 第1四半期 決算説明会

主な質問と回答

日時： 2018年8月1日（水）17:00 ～ 18:00

場所： 野村コンファレンスプラザ日本橋

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績に関して】

Q. 1Qの営業利益が154億円は、会社計画に対してどのくらい良かったのか。また、スライド4ページにある、18年度の一過性収益費用のネットが100から110億円という見込みは期初予想に対してどうだったのか、この2点について教えてください。

A. 事業面では約40億円、会社計画から上振れました。内訳はオフィス事業で20億、それから機能材料が非常に好調で、産業材料・機器事業が約20億プラスになりました。CREに関しては、通期201億円ですが、期初は180億円ぐらいと見ておりましたので、期初の想定からプラス20億円になっております。

Q. 今回、年間の営業利益の予想を20億円引き上げた背景を教えてください。

A. 期初の会社計画では事業面の実力ベースでの営業利益が550億円程度、そこに特殊要因の100億円をプラスした650億円に目線を置いていました。それに対して事業環境の変化やリスクを鑑みて、業績予想は600億円としたと説明させていただきました。今回CRE戦略の一環としてのセール&リースパックの効果が20億円想定から上振れる見通しですので、通期の営業利益は670～680億円程度に目線が上がってきたことによって、620億円に引き上げる判断をしたとご理解ください。ベースとなる事業が生み出す営業利益の550億円は蓋然性が高まってきているので、それを更に上積みしたいと考えております。

【事業に関して】

Q. オフィス複合機の競争環境の変化、特に去年苦戦した欧州の状況について教えてください。

A. 注力しております高速機のセグメント 4 以上では、欧州の販売台数は前年同期比で 40%増えました。A3 カラー複合機全体でも 14%の増という結果でしたので、17 年度の 2Q 以降のモメンタムが継続していると認識しています。

Q. オフィスの消耗品が、順調に改善してきていますが、A3 カラー複合機の販売が好調であることを考慮すると、今年度通期としてはプラスになると理解していいでしょうか。

A. 通期では現地通貨ベースで 1 %のプラスになると見込んでいます。

Q. 機能材料や計測機器の事業について、1 Q はしっかりと結果が出てきているようですが、2 Q 以降の方向性は、それぞれどう考えておけばよいのか、お聞かせください。

A. 機能材料は、期待以上に上振れて好調でした。高付加価値のポートフォリオの戦略が奏功し、耐水型の VA-TAC フィルムや IPS 用 ZeroTAC フィルム、薄膜の売上構成比が高くなっていますので、2Q 以降もきっちりと数字出せると考えております。計測機器は前年に過去最高の売上高を記録しましたので前年同期比では減収でしたが、2 Q 以降も、顧客層やアプリケーションが広がってきており、予定通りに進捗すると考えております。

以上